

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 19 年 12 月 20 日
事業所名	せんねん村グループホーム吉良荘
事業所番号	2375900327
記入者名	職名 管理 氏名 早川正徳
連絡先電話番号	0563 34 912

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「こころのびのび、からだいきいき、いのちきらきら」を、当ホームの理念とし、「これまでの人生、いろいろあったけれど、ここで暮らした日々が一番良かったよ」そう思って頂けるホームを目指しています。	○ 職員が集まる休憩室に掲げられているが、ミーティングの時間を利用して定期的に確認しあっていく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員が目にする所に掲示し、部署目標、個人目標に落とし込み日々のケアに取り組んでいる。また、ご利用者のしたいことを出来る限りさせてあげたいという思いのもと取り組んでいる。	○ 部署目標から個人目標へと作成するため、理念が生かされている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居者やご家族に対しては、入居の際に説明し理解して頂いている。また、運営推進会議の場において参加者に理念を伝えているが、地域住民の方々にまでは理念が浸透していないと思われる。	○ 運営推進会議の際に、どうしたら地域の方々に理解して頂けるか話してみる。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの周りには民家がなく、隣近所の方と挨拶を交わすことはほとんどない。しかし、毎日買い物に行っている為、外出先の八百屋さんやスーパーの方々とは、気軽に会話ができるようになっている。	○ 地域の行事に積極的に参加していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地域活動(草取り、掃除、祭礼、消火訓練等)に参加している。小学校の学芸会に参加したり、ボランティアの方々との交流もある。	○ 地域との交流を大切にしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	ホーム見学の問い合わせがあった時には、積極的 に受け入れている。しかし、地域の高齢者の暮ら しに役立てるような活動は今のところ取り組めて いない。	○	地域高齢者との出会いの機会を考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価の結果を、ミーティングで話し 合い改善している。自己評価においても、職員全 員で取り組んだ。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価結果の報告、活動報 告、実績の報告をし、参加者の方々より助言を頂 いている。また、会議に参加していない職員に は、ミーティング時に報告し情報の共有ができて いる。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	必要に応じ役場に足を運んでいる。また、必要な 協力体制は出来ている。	○	役場が主催する出前講座や催し物に参加し、気軽 に役場へ出向く事ができるようにしていく。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見人制度を利用してい る方はいないため、理解している職員は少ないと 思われる。	○	勉強会を開催し周知していく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	虐待をしてはならない事は、全職員理解してい る。また、職員間で話し合い意識を強めている。	○	定期的に勉強会を開催していく必要がある。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を行う際は、契約書と重要事項説明書を使い説明している。特に注意して説明しなければならない事は、時間をかけ説明し、理解・納得を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の中で、ご利用者が気軽に思ったことを表現できる雰囲気があり、実際に意見・不満を伝えることができている。意見・不満が上がった場合、スタッフ間で話し合いがされている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ご家族の面会時には、ご利用者の様子を積極的に伝えるよう心がけ、サービス担当者会議においては日頃の様子を細かく伝えている。その他の報告は随時行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>アンケート・サービス担当者会議・運営推進会議等において、ご家族よりお話を伺うようにしている。クレームに関する窓口を作ったり、クレーム報告書を作成し是正をしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングや何か気が付きがあった時には、その都度意見交換ができる環境にあり、自由に意見を述べられる環境にある。職員個人の悩みは、年二回の個人面談時やその都度聞くようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご利用者の状態に応じた勤務体制ができており、必要に応じ勤務の調整に努めている。</p>	<p>○</p> <p>フロアーに職員が一人きりになる時間帯があるため、勤務の見直しをしていく必要がある。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職場内の環境が良く離職率が低い。離職・異動があった場合、ご利用者やご家族へ説明し不安感を与えさせないよう配慮をしている。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、二年目研修、管理者研修、各種勉強会等に参加している。人員に余裕がないため、代表者が研修を受けミーティング時に伝達講習するようにしている。	○	各職員の目標に応じた研修が受講できるよう、人員に余裕ができるとよい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内では、情報を共有したり勉強会に参加し相互に交流する機会があるが、他事業者となるとあまり交流することがない。	○	近隣のグループホームと交流する機会を作っていく。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	面談の機会を設けたり、悩み事を抱えていそうな職員には随時声をかけるようにしている。働きやすい環境を作り、人間関係の把握に努めている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	一年を上半期・下半期に分け、各自目標を立て向上心を持って働けるようにしている。また、目標の達成状況を自己評価し、上司が評価するシステムができています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前後に、ご家族やご利用者より生活歴を聞き、在宅での生活とあまり変化がないよう注意している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホーム利用までの経緯を注意深く聞き、どのようにすることがご家族やご本人にとって一番良いのかを考えるように努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ホームが提供するサービス内容と現状を伝え、必要に応じ相談を受け付けている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居して頂く前に、ホームに見学に来ていただくようにしている。新しい入居者が来られた場合、安心してご利用者同士の輪の中に入れるようサポートしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ご利用者と共に生活している中で、ご利用者から学ぶことも多い。出来ることは行って頂き、共に支えあって生活している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方に、ご利用者の日常の様子や出来るようになったこと、出来なくなったことを伝え、共に支えあっていく関係ができています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者・ご家族より生活歴を聞き、家族関係を理解した上で支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入居する前利用していた、美容院やかかりつけの病院に通い、馴染みの関係を続けている。また、近所のスーパーに行くと、知人に会い懐かしそうに話している姿もみられる。	○	ご利用者の希望を叶えられるよう支援していく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員はご利用者の性格を把握しており、利用者の相性を考えながらケアをしている。トラブルが起こりそうな時には、職員が間に入り対応している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に入居された方にも、ご利用者とともに面会に行き、関係を断ち切らないように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人が望む暮らし方を提供するため、希望に沿ったサービスを提供している。また、自分の気持ちを伝えることができない方には、ご家族からの要望や助言を参考にしている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご利用者情報、生活歴を把握し、その人が必要とするサービスを提供している。在宅で行っていた事を、ホームに入居しても続けて頂けるようサポートしている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>お一人お一人の様子を介護記録や日報に記入する事により、ご利用者の状態把握をしている。また、職員も介護記録や日報を見ながら、その人に合ったケアを提供している。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議は三カ月に一度、または状態変化があった時、ご利用者、ご家族、担当職員、計画作成担当者によって話し合いの場がもたれ、介護計画が作成されている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は三カ月に一度、担当職員がプランの評価をし、サービス担当者会議の際にご家族に状況説明をしている。体調の急変時等においても、その都度計画の見直しをしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤した職員は、介護記録を必ず記入するようにしており、日報を踏まえご利用者の日々の様子を把握するようにしている。記入する際は、色分けし一目で分かりやすい介護記録の書き方を目指している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者、ご家族の要望に積極的に耳を傾け、その都度柔軟な支援をして行く様心がけている。ご家族の状況により通院介助を支援している方もいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方に畑の指導をして頂いたり、演劇や音楽コンサートを行って頂けるよう働きかけ、協力して頂いている。また、消防署と連絡を取り合い年二回避難訓練をしている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご利用者の状況や希望に応じ、同法人のサービスや他事業者と話し合い支援をしている。以前ターミナルケアの必要なご利用者に、訪問看護サービスを利用したことがある。	○	他事業所と連絡を取り合うことが少ないため増やしていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の方に参加して頂き助言を仰いでいる。今後必要に応じ協働していきたい。	○	必要に応じ協働していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の要望に応じたかかりつけ医に通院している。協力医とは連絡を密にとり、些細な疑問・不安でも指示を仰げる体制になっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご利用者がかかっている主治医は、認知症についての理解があり、相談にも随時のっていただいている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が週二回出勤しており、ご利用者・ご家族・職員の相談になっている。介護職員からご利用者の体調面に異常があった時には、看護師へ相談や連絡を行い対応している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご利用者が入院した際は、病院関係者と連携し入院生活の適応と早期退院できるよう協力している。また、他のご利用者との面会に行き状態を把握するようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご利用者が重度化した場合、ご本人・ご家族の要望を聞き、主治医、ホーム職員と話し合い方針を共有し決定している。また、入居時に事前指図書にご家族の希望を伺っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご利用者とご家族の希望を優先的に考え、かかりつけ医の協力のもと職員が一丸となり支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>接遇研修やご利用者体験を開催し、ご利用者の気持ちを理解していく。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全てのご利用者とはではないが、食事のメニューを決めたり、調理、後片付け等を職員と一緒にしている。また、毎食職員も同じ物を食べ食卓を囲んでいます。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコやお酒を飲まれる方はいませんが、ご利用者が希望する飲み物やおやつを提供しています。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンは常に見直すようにしており、その人に合った支援をしている。紙パンツの利用者を布パンツに変更し、皮膚疾患の軽減やコストの削減に取り組んでいる。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望に沿い、毎日入浴する方もいれば1日おきに入浴する方もいる。入浴時間は、15時半から18時までであるが、希望者がいれば夕食後入浴される方もいる。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご自分で動かれる方は、自由に休息されているが、日中はなるべく身体を動かすようにしていただいている。夜間なかなか寝付けない方は、リビングで過ごしていただいたり、自室に雑誌を持っていき読んでいる方もいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者が好きな事を職員は把握しており、家事が得意な方や、塗り絵、歌、針仕事、草取り、散歩等様々な事を取り入れ支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前はお金を自分で管理されている方はいたが、今現在自己管理されている方はいない。お小遣いは職員が管理しているが、希望があれば職員と一緒に買い物に行き好きなものを購入している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日どなたかにお願いをして買い物に行っている。職員の配置で都合が見つからない時もあるが、ドライブや散歩、畑仕事等外出するときが多い。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	イベントを毎月企画し、普段は行けない季節にあった所へ外出している。ご家族と一緒に出かけられる方もいる。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で自由に電話をされている。毎年ご家族へ年賀状を送るよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られた際にはお茶をお出しし、リビングや居室など来客者が希望された場所でお話して頂けるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束しないケアを理解しており、現在も身体拘束をしていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関鍵は夜間のみ掛けるようにしている。日中外に出て行かれようとする方がいるが、職員と一緒に出かけたりお話をしながら見守るようにしている。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は注意が必要な方を把握しており、職員同士声を掛け合いながら居場所の把握をしている。		
68 注意が必要な物品の保管・管理 注意が必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要なものは、ご利用者の手の届かないところにおいて管理している。生活空間が殺風景になる事がないように配置しており、問題が発生しそうな物品はその都度検討している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起こった際には、事故報告書・ひやりはつとをあげ再発の予防と防止をしている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎月のミーティング時に、勉強会を行い学習している。また、各マニュアルはあるが、緊急時即座に対応できるか不安である。		定期的に勉強会を開催しているが、緊急時に果たして対応できるか不安である。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近所に民家がなく、地域の方々に協力を得られる体制はないが、年二回の避難訓練と災害時のマニュアルがあり、職員の動きが決められている。また、地域の防災訓練に参加している。		運営推進会議の際に、地域の方々との協力体制について話し合っていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時やサービス担当者会議の際に、起こりうるリスクを説明しその都度対策を話し合っている。外出すれば様ざまな所に危険があり、日常生活を送れば危険がつきものであるという事はご理解頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常にご利用者の変化には気を配っており、異変時にはバイタル測定をしている。日報や介護記録等により情報を共有し、ご家族への連絡や看護師、管理者への連絡が取れている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に変更があったときには、確実な申し送りをし全職員が把握している。投薬介助においても細心の注意を払い、投薬手順を徹底している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便チェックをおこない、便秘気味の方には、水分を多く取って頂いたり、食物繊維、乳製品、運動、腹部マッサージ等により自然排便を促している。それでも排便のない方には、内服薬でコントロールしている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っており、歯茎用歯ブラシを使用している。また、定期的に歯科衛生士に口腔内をチェックしてもらっている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量をチェックしており、水分量はいつも多く取っていただくよう声かけしています。定期的に献立表を管理栄養士に確認していただき、大まかな栄養バランスを把握しています。食事量・食事形態は個別に対応しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外から帰宅した際は、うがいと手洗いをしており、職員は、一介助一手洗いをしている。インフルエンザの予防接種をしており、感染症には十分気をつけている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や包丁は毎日殺菌消毒しキッチン周りを清潔に保っている。食材は、毎日新鮮なものを購入し賞味期限を守って食べている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関が北側にあり暗さを感じる為、季節感のある飾り付けをしている。また、高台にホームがある為、近隣に人が気軽に出入りできる環境ではない。		玄関に季節感のあるものを飾り、暗さを感じさせない工夫をしている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、ご利用者が自由に雑誌を読んだり、音楽を聴いたり、学習できるように配慮している。また、食堂や廊下には、季節感のある飾り付けや花が飾られている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは少々狭く感じられるが、ソファや食卓の配置を工夫し、ご利用者が楽しそうにお話している姿が見られる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具を持ってきて頂いている が、ベッドのみの方もいらっしゃる。ご利用者 の中には、鏡台のある方や、ベランダでお花を育て ている方もみえ、居室にはそれぞれの方の個性が 見られる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	毎日掃除の際は換気をするようにしている。温度 計や湿度計を見ながら、加湿器やエアコンで温度 調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	最近廊下に手すりが設置され、手すりをつたいな がら歩いている姿をよく見られる。また、様ざま な所に手すりが設置されており、安全に配慮され ている。足腰の強い方は、エアロバイクをこいで いる方もいる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	ご利用者が困っている様子の時には、職員が声を かけサポートするようにしている。居室には表札 があり、部屋が分からず迷っている方を、案内し てくださる方もみえる。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	今年は建物周りの小さなスペースに、花壇や畑を 作り、野菜や花を植え、ご利用者と共に農作業を 楽しむ事が出来た。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 大いに増えている ○ 少しずつ増えている ○ あまり増えていない ○ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ほぼ全ての職員が ○ 職員の2/3くらいが ○ 職員の1/3くらいが ○ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2/3くらいが ○ 家族等の1/3くらいが ○ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者の居室、リビングからは三河湾が眺望でき、景色が大変良い場所に立地しています。地域の環境を生かし、海を眺め散歩したり、自然の多い中をドライブできるのは、ご利用者の方にとっても癒しとなり、満足して頂けていると思います。

職員の離職率が低く、男性職員も女性職員もあり、年齢層も20代、30代、40代、50代、60代と幅広く、それぞれの能力に応じた役割が発揮でき、チームワークの良い集団となっています。認知症高齢者の方々は大変傷つきやすく、環境の変化、人間関係によって、良くもなり悪くもなります。職員同士の人間関係がよく、職員の入れ替わりも少ないことで、ご利用者となじみの関係を作ることができています。

前年度に比べ地域の方々との交流が増え、園芸ボランティアさんと一緒に畑を作り作物を植え収穫したり、演劇・歌謡ボランティアさんによるミニコンサートでは、皆で大合唱し、懐かしのあまり涙を流される方もみえました。地域の行事にも積極的に参加するようにし、神社の掃除、海岸の掃除、祭礼、小学校の学芸会等に参加し、少しずつ地域との交流の場が増えてきました。

日常生活を送る上で介護事故はつきものです。事故を繰り返さない為に、事故報告書を作成し、是正策を考え、検証するようにしています。また、事故に関する情報を共有する事によって、自分たちのケアの参考にしています。今年一年、服薬介助に関する事故が一件も起こらなかった事は、各職員がマニュアルを守り、注意してくれたからだと思います。